

| 高等学校 地理歴史科 歴史総合 B近代化と私たち（４）近代化と現代的な諸課題 |  |
|--|--|
| 対象児童生徒                                 | 盛岡第三高等学校 第1学年 3クラス（123名）   |
| 使用ソフト等                                 | Microsoft Teams、Microsoft Forms、PowerPoint、Google Jamboard（本文中ではJamboardと記載）   |
| 端末環境                                   | Chromebook 生徒機1人1台または生徒所有のスマートフォン、PC 教師機1台   |
| 概要                                     | <p>本単元では、近代化の歴史に存在した課題について、同時代の社会及び人々がそれをどのように受け止め、対処の仕方を講じたのかを諸資料を活用して考察することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解することをねらいとしている。この単元の授業を行うにあたり、3時間相当を小単元とした。単元のねらいを達成するために、次の四つの学習場面で、ICTを効果的に活用した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒が学習の見通しをもちやすくするために、学習の流れの図示並びに生徒が学習課題をより身近なものと感じるためのニュース動画やWeb記事の提示を行う導入場面</li> <li>2 これまでの既習内容を振り返り、Microsoft Teamsのクラウドにある資料から必要な情報（PDFファイル）を生徒が選択し、学習を進める場面</li> <li>3 イギリス・アメリカ・日本の歴史についてまとめた表に基づいてJamboardに示したグラフを活用し、共通点や違いについて整理する場面</li> <li>4 それぞれのグループがJamboardに示したベン図を用いて、まとめた考えをオンラインで共有し、個人の考えを深める場面</li> </ol> |

## 1 ICTの活用場面

| A 一斉学習   | B 個別学習   | C 協働学習   |   |   |
|--|--|--|---|---|
| <p>挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。</p>  | <p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。</p>                       | <p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。</p>                                |   |   |
| <p><b>A1 教師による教材の提示</b></p>  <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>     | <p><b>B1 個に応じた学習</b></p>  <p>一人一人の習熟の程度等に<br/>応じた学習</p> | <p><b>B2 調査活動</b></p>  <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p> | <p><b>C1 発表や話し合い</b></p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p> | <p><b>C2 協働での意見整理</b></p>  <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>    |
| <p><b>B3 思考を深める学習</b></p>  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p> | <p><b>B4 表現・制作</b></p>  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p>      | <p><b>B5 家庭学習</b></p>  <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>            | <p><b>C3 協働制作</b></p>  <p>グループでの分担・協働による作品の制作</p>   | <p><b>C4 学校の壁を越えた学習</b></p>  <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p> |

「教育の情報化に関する手引―追補版―（2020年6月）」 文部科学省

## A 1 教師による教材の提示

単元の導入時に生徒が学習内容への興味・関心を高め、学習課題が自分にとって身近なものであることを実感する目的で、日本におけるヘイトスピーチの様子を全体で視聴する。また、1単位時間の導入では、生徒が学習の見通しをもちやすくするために、単元の学習内容の流れを図で示す他に、一単位時間において目指すゴールを提示する。

学習内容を振り返るためにMicrosoft Formsを用いて、課題解決に必要な知識を確認しながら学習課題に対する生徒それぞれの考えを提示することにより、次の学習に対しての関心を高める。

近代化と現代的な諸課題 (3時間)  
現代で起きている諸問題と近代化の歴史との結び付き

↓  
イギリス・アメリカ・日本の動きの共通点と違いについて考察し、当時の世界は多文化共生(多文化理解)の考えを持つことはできたのだろうか

↓  
多文化共生社会を目指す現代と近代化を進めた時期の世界を比較し、現代に生きる私たちがこの目標を達成するために、個人で、地域で、国として行えることは何かを考える。

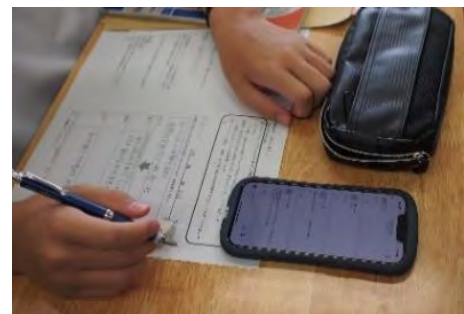
## B 2 調査活動

これまでの学習内容(中学校を含め、これまでの歴史総合でも学んだイギリス・アメリカ・日本の近代化の歴史)をまとめたPDFファイルをMicrosoft Teamsにアップロードする。生徒はそれを活用し、学習課題の解決に向けてワークシート(紙)にある表に整理して学習を進める。また、第3時の学習のまとめでは、これまでの学習で各グループの学習課題への考え(PDFファイルにしたもの)をMicrosoft Teamsで確認し、19世紀の世界と現代の世界の特徴を比較する。さらに多文化共生社会の実現のために自分が行える具体的な方法を考える上で、自分のプリントや教科書の記述に加え、Microsoft Teamsの投稿欄にあるURLから動画コンテンツを活用し、自らの考えをまとめる。



## C 1 発表や話し合い

通常の話合いでは、周囲との話し合いが中心となり、発言する生徒、意見の固定化が見られる。Microsoft Teamsの投稿欄へ自らの考えや資料等から読み取ったことを発信することにより、クラス全体での意見交換や考えを深めることが可能になり、発言することが苦手な生徒でも投稿欄にある他者の考えや自らが資料から発見したことを手掛かりに発信することができる。これにより、生徒はそれまでよりも多くの考えや情報に触れることができ、その後のグループ学習での話し合いの質が高められる。



## C 2 協働での意見整理

前時またはその時間に個人でワークシートの表に整理した情報をJamboardに示したシンキングツールにグループごとに集約し、協働して学習課題に対する意見をまとめる。その後、それぞれのグループでまとめられた意見をスマートフォンやタブレットPCの画面で確認することで、瞬時に学習課題に対する様々な視点や捉え方を確認することができる。グループ間の移動がない分、時間が節約され、新たな情報や多くの情報を自分のグループの考えに加えることが容易になる。



| 2 単元の指導と評価の計画（全体3時間）   |   |  |    |    |  |
|--|---|--|----|----|--|
| 時  | 学習活動  | 指導上の留意点  | 重点 | 記録 | 評価規準・評価方法  |
| 1  | <b>学習課題</b> 近代化の歴史の中で、人々は異文化とどう向き合ってきたのだろうか。  |  |    |    |  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>近代化の歴史で異文化接触の場面において日本や欧米で行われた政策や具体的な行動について、これまでの学習を振り返り、例を挙げる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ノートやプリント、教科書を活用し、簡潔に情報を多く出した上で分類するように指示する。</li> </ul>   | 知  | ○  | <b>【知・技】〔記述〕</b><br>○現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史をこれまで得た知識と結び付けて理解している。  |
| <b>小单元全体に関わる問い</b><br><b>「多文化共生社会の実現のために、近代化の歴史を振り返り、私たちにできることは何だろうか。」</b>   |   |  |    |    |  |
| 2  | <b>学習課題</b> 19世紀の世界の特徴とはどんなものだったのか。<br>また、その時代に多文化共生は実現できなかったのだろうか。   |  |    |    |  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>イギリス・アメリカ・日本でみられた共通点や違いを表に整理し、その表を基に学習課題についてのグループの考えをまとめる。</li> <li>各グループの成果物を確認し、自分のグループの考えを見直し、まとめ直す。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集の際に、簡潔に伝え、より多くの情報を集められるよう指示する。</li> </ul>   | 思  | ○  | <b>【思考・判断・表現】〔記述〕</b><br>○異文化との接触の際、日本がとった行動の背景や原因、結果や影響などに着目して、イギリスやアメリカの動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、表現している。 |
| 3<br>本<br>時  | <b>学習課題</b> 現代において多文化共生社会を実現するために必要な条件とは何か。   |  |    |    |  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>現代の状況を考え合わせ、多文化共生社会の実現に取り組める内容を記述する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>現代と19世紀の世界を比較したうえで、知識として得た現代社会の特徴を踏まえて実現できる条件を考えることを説明する。</li> <li>レポートを画像として保存し、Microsoft Teamsにアップロードするよう指示する。</li> </ul> | 態  | ○  | <b>【主体的】〔記述〕</b><br>○多文化共生社会の実現を視野に入れ、自身との関わりを踏まえて「近代化と私たち」の学習を振り返るとともに、「国際秩序の変化や大衆化と私たち」の学習へのつながりを見いだそうとしている。               |
| <b>小单元全体に関わる問いへのまとめ（例）</b><br><b>文化や考え方、価値観の違いを優劣で考えずに相手との共通点を見付ける努力をする。</b> |   |  |    |    |  |

| 3 ICTを活用した授業例（第3時） |   |
|--------------------|---|
| 本時の目標              | 第1時にまとめた近代化を遂げた日本・イギリス・アメリカの傾向と第2時でまとめた近代化が進んだ19世紀の特徴を踏まえて、現代で多文化共生社会を実現することを可能にする条件を考察し、自分自身、地域、国で多文化共生を実現するためにできることを表現することができる。 |

○指導過程

|  | 学習活動   | 指導上の留意点<br>(◇評価 【 】評価の観点 ■活用するICT機器等)   |
|--|--|---|
| 導入<br>10分  | 1 前時の復習<br>19世紀の特徴の確認<br><br>2 19世紀の世界と現代の比較<br>・発問「多文化共生や異文化理解が難しかった19世紀と現代との違いは何だろうか。」について考える。<br>・Microsoft Teamsの投稿欄を使用して自らの考えを発信する。<br>3 現代世界の特徴の理解<br>(1) 特徴としてのグローバル化、国際協力、国際競争と国際分業<br>(2) 現代での異文化への姿勢の変化<br>異文化理解から多文化共生へ | <ul style="list-style-type: none"> <li>第2時でまとめた表の情報をJamboardにまとめるよう指示する（またはそれぞれがまとめたものの共有を指示）。<br/>■タブレットPC・スマートフォン<br/>協働での意見整理 [C2]</li> <li>Jamboardにまとめる際には、他のグループの記述も読み、考えを深めるように指示する。<br/>■タブレットPC・スマートフォン<br/>発表や話し合い [C1]</li> <li>■ノートPC</li> <li>■プロジェクター（スクリーン）</li> <li>■プレゼンテーションソフト<br/>教師による教材の提示 [A1]</li> <li>グローバル化が進んだ1990年代と多文化共生の必要性が言われた時期が同一であることを示す。</li> </ul> |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>学習課題</b> 現代において多文化共生社会を実現するために必要な条件とは何か。         </div> |  |   |
| 展開<br>33分  | 4 本時のゴールと単元全体に関わる問いの確認<br>5 個人による学習内容の整理と考察<br>・前時にまとめた19世紀の状況を活用し、現代世界と対比させて考える。<br>・これまでにまとめた異文化接触の様子や19世紀の世界の特徴を活用し、現代世界の特徴から多文化共生を実現できる方法を考える。<br>6 意見の発信と共有<br>・Microsoft Teamsの投稿欄を活用し、自分の考えを発表する。                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>相互評価ではなく、自己評価を行うことを伝える。<br/>■タブレットPC・スマートフォン<br/>調査活動 [B2]</li> <li>学習内容の整理、考察</li> <li>Microsoft Teams上のファイル欄にあるPDFファイル（NHK for School動画、YouTube人権啓発ビデオのURL記載）を活用するよう指示する。<br/>■タブレットPC・スマートフォン<br/>発表や話し合い [C1]</li> <li>全員の活動をサポートすることが目的であることを伝える（本時のゴールへの全員の到達）。</li> </ul>   |
| 終末<br>7分   | 7 まとめ<br>・現代の特徴と自らの状況を考え合わせ、多文化共生社会の実現に取り組める内容を記述する。<br><br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>小単元全体に関わる問いへのまとめ（例）</b><br/>           文化や考え方、価値観の違いを優劣で考えずに相手との共通点を見付ける努力をする。         </div>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇多文化共生社会の実現を視野に入れ、自身との関わりを踏まえて「近代化と私たち」の学習を振り返るとともに、「国際秩序の変化や大衆化と私たち」の学習へのつながりを見いだそうとしている。<br/>【主体的に学習に取り組む態度】（ワークシート）（記述）</li> <li>ワークシートの記述欄を画像として保存し、Microsoft Teamsにアップロードするよう指示する。</li> </ul>   |

## 4 ICTを活用した学習活動の様子

### 【A 一斉学習】 A1 教師による教材の提示（第1時～第3時）

#### （1）学習の見通しの共有

単元での学習の進め方を視覚的に捉えられるように、課題解決の過程を提示した。また、1単位時間ごとに同じスライドを提示し、全体3時間の中でどの部分にあたるかを示すことで、授業の間隔が空いても生徒は容易に学習内容を想起することができた（図1）。その際に生徒が到達を目指す「今日のゴール」も提示した（図2）。これにより、単元全体に関わる問いを意識し、1単位時間ごとに自分が何をを行い、どのようにすればいいのかを理解し学習活動を生徒自ら進めることができた。

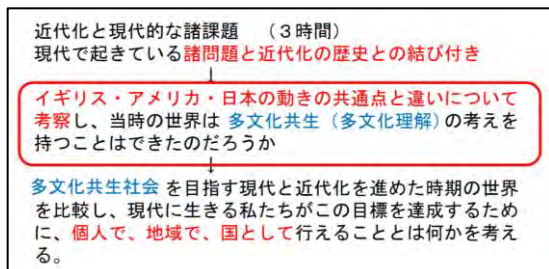


図1 単元のまとめ

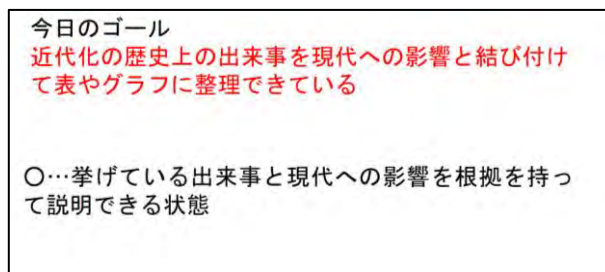


図2 今日のゴール

#### （2）作業手順の提示・デジタルホワイトボードの操作方法の説明

ワークシートでの作業手順をアニメーション付きのスライドで示した。授業で使用するワークシートも画像として取り込んで提示し、作業を行う箇所を示しながら説明した。口頭のみでの説明よりも生徒は視覚で手順を捉えることができ、その後の作業で戸惑ったり、止まったりしている様子が見られなかった。また、本単元では、デジタルホワイトボードとしてJamboardを使用した。授業では、アクセスする際のURL、付箋機能の使い方の手順を生徒の操作に合わせて説明を行った。

#### （3）問題提起としての提示

第1時の導入として、単元全体に関わる問いへの動機付けとしてMicrosoft Teamsのチャンネルに日本におけるヘイトスピーチ問題のニュース動画とアメリカにおける先住民寄宿舎学校のWeb記事のURLを載せた（図3）。ニュース動画はプロジェクターで投影して視聴、記事についてはURLから生徒それぞれがリンク先に移動して読んだ。ニュース動画で日本人の中にも在日外国人への様々な考え方があることを映像として具体的に捉えることで生徒は、教科書の図版を見て口頭で説明を受けるよりも身近なものとして感じていた。また、Web記事を読み、その下に関連事項が載っていることから、早く読み終わった生徒の中にはさらに読み進めた生徒もいた。このことからこれから学ぶことへの生徒の関心は喚起できていたと思われる（図4）。

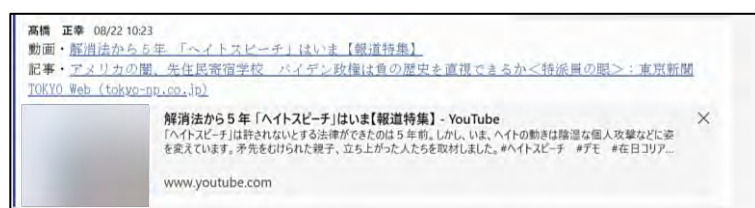


図3 Microsoft TeamsへのURLの掲載



図4 全体での動画視聴

#### （4）前時の学習状況の提示と確認

第2時の導入では、第1時での学習活動で感じた内容についてMicrosoft Formsを活用し、「イギリス・アメリカ・日本が異文化との接触において行ったこと（行為）で多かったのは次のうちどれか。」について、集計を行った。生徒はその集計から、異文化への理解・共生の度合いと現代への影響が密接に関係していることを確認した。この方法により、指導者が授業の中では感じる事が難しい生徒の学習状況を客観的に確認できる。また、生徒は他の人の意見に触れ、第2時での学習課題である「19世紀の世界の特徴とはどんなものだったのか。」についての関心を高めることができた。

## 【B 個別学習】 B2 調査活動（第1時、第3時）

### （1）個別学習のヒントとしての活用

第1時の展開では、学習課題である「近代化の歴史の中で、人々は異文化とどう向き合ってきたのだろうか。」の追究のために、教科書に紹介されているイギリス、アメリカ、日本の異文化接触の時期を探る学習活動を行った。その際の参考資料として、主に県内で使用されている教科書から、イギリス、アメリカの近代化に関する既習事項について、指導者がまとめたものを準備した。そして、Power Pointで作成したスライドをPDF化して参照させた。教科書を中心に学習を進める上での考えるヒントとして必要に応じて参照するよう説明した。生徒はファイルを閲覧しながら、解決の見通しをつけてそれぞれのペースで学習を進めていた（図5）。その後、グループで話し合いながら、配付されたワークシートに整理した。生徒はそれぞれ分担して調べた内容について、教科書の記述のみではなく、PDFファイルやインターネットでの検索で調査した内容を踏まえて話し合いを行っていた。

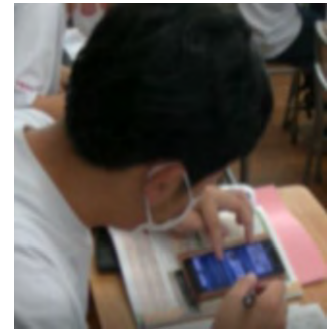


図5 学習の様子

第3時の終末では、単元全体に関わる問いについて、個人（自分）、地域、国で何ができるかについて、配付したワークシートにまとめを記入するよう指示した。その際に考える材料としてNHK for Schoolの動画、人権啓発動画（YouTube動画）のURLを記載したPDFファイルを活用するよう説明した。生徒はまとめを作成する上で必要な情報をどのように得るかを判断し、これまでの学習を踏まえて動画を視聴（図6）したことにより、ワークシートの記述は個人レベルだけでなく、国レベルでの取組についても述べられていた（図7）。



図6 動画視聴の様子

①現代で多文化共生社会を実現するための条件（箇条書きで記入）

- ・教育（戦争教育、読書）
- ・正しい情報の発信（偏った情報による他国への偏見を生かさない）
- ・民主的な政治：トップと定期的に入れ替わるようにする
- ・低賃金国の賃金を上げよう

↓

②まとめ

|     | 多文化共生社会実現のためにできること   |
|-----|--|
| 個人で | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権作文を書く</li> <li>・募金</li> <li>・公民の学習</li> <li>・英語学習</li> <li>・学級文化を育む</li> <li>・余団の</li> </ul>   |
| 地域で | <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人の積極的な雇用、相談窓口の開設、拡大、生活指導</li> <li>・国際交流イベント開催</li> <li>・自治会での多文化交流</li> </ul>  |
| 国で  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中立の情報発信、情報の統制を止める</li> <li>・トップの入れ替えを頻りに行う</li> <li>・日本語学校を設ける</li> <li>・戦争憲法に関心教育を促す</li> <li>・外国人労働者、技能実習生の待遇向上（教育）と労働環境の改善</li> </ul> |

図7 記述状況

## 【C協働学習】 C1 発表や話し合い（第1時、第3時）

### （1）考えの共有と深まり

第1時の導入において、ニュース動画とWeb記事を読んだ後に、指導者が「この二つの事柄に共通していることは何でしょうか。」と発問した。その後、「Microsoft Teamsの投稿欄にその共通点を投稿してみましょう。」と呼びかけた。呼びかけ直後は、投稿の頻度は少なく、「人権侵害」「差別」といった単語での表現であったが、他者の考えをホワイトボードやスマートフォンの画面から知ると投稿の頻度が上がり、内容も「異文化や外国人、少数派への差別偏見」「人種民族に対する差別偏見」「異なる文化への偏見」といった表現となっていく。複数の資料がもつ意味や関連性を深く捉えようとする意図が見られるようになった（図8）。



図8 考えの共有

第3時の展開では、単元全体に関わる問いである「多文化共生社会の実現のために、近代化の歴史を振り返り、私たちができることは何だろうか。」に対してのまとめをするにあたり、現代で多文化共生社会を実現するための条件を配付したワークシートに記入するよう指示した。その際に、指導者から「自分が考えた意見を自分だけのものとせず、クラス全体で今日のゴールに到達できるよ

う共有してみよう。」と呼びかけた。その後、個人での学習活動が進むにつれて、投稿欄に考えが投稿された(図9)。その内容は「自分と違う何かを認めることは容易ではない。」という学習内容への感想から始まったが、それまで出された意見を参考にしながら、権利の尊重や格差の縮小といった異なる文化の受容だけではない側面からの意見が出されるようになった。そして、まとめをする上での情報として書き加えている生徒もいた。

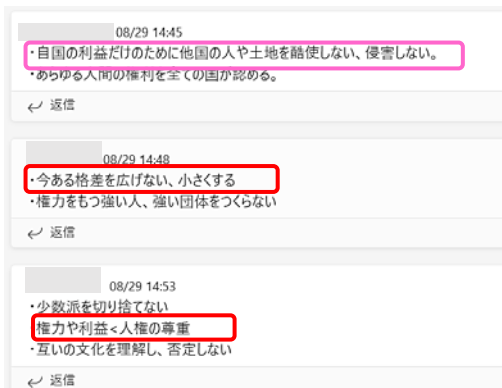


図9 現代での多文化共生社会実現の条件

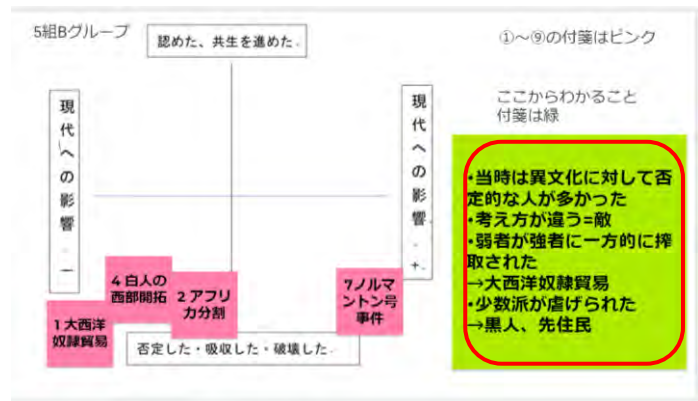


図10 グラフへの情報整理

## 【C 協働学習】 C2 協働での意見整理 (第1時、第2時)

### (1) 情報整理と学習課題の追究

第1時では、イギリス、アメリカ、日本における異文化接触の時期に関する情報収集をそれぞれ分担し、ワークシートの表にまとめた。また、Jamboardに設定したグラフを活用してそれぞれの出来事を配置していき、各国が異文化接触の時に行った行動・政策を評価する学習活動を行った。生徒は表にまとめた出来事をグラフに置いていく際にグループ内で「なぜ、そこに置くのか」を説明し合った。さらに、このグラフから分かることを付箋機能を使って、グループごとにまとめたことで、第1時の学習課題である「近代化の歴史のなかで、人々は異文化とどう向き合ってきたのだろうか。」についてそれぞれのグループが迫ることができた。それぞれのグループがまとめた付箋については第2時でも閲覧が可能であるため、生徒は学習内容をそのまま資料として活用していた(図10)。

第2時では、三つの国の近代化の過程における共通点と違いを、前時のシートを基に、ワークシートに記述した。また、Jamboardに設定したベン図に配置するよう指示した。そして、その様子から学習課題「19世紀の世界の特徴とはどんなものだったのか。また、その時代に多文化共生は実現できなかったのだろうか。」を考えさせた。ベン図から19世紀の特徴をつかむ過程で、近代化を進めた19世紀という時期の輝かしい部分に隠れた負の面に気づき、記述しているグループも見られた(図11)。

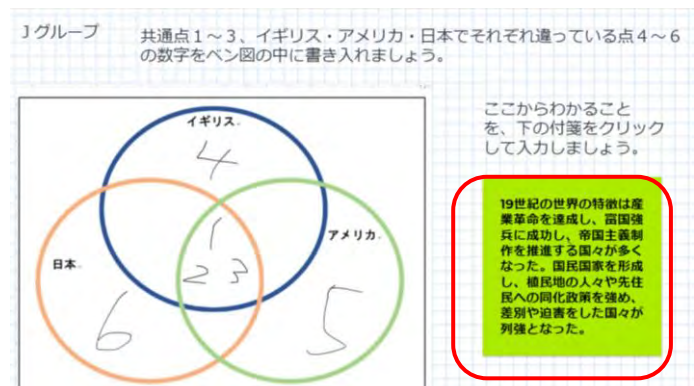


図11 ベン図での意見整理

## 5 ICTを活用したことによる学習の成果と指導上の留意点

### 【学習の成果】

#### 1 一斉学習について

本単元では、一斉学習の場面で課題解決の過程や授業のゴールを提示することにより、生徒が学習の見通しを持ちやすくなることをねらいとした。第2時の導入でのMicrosoft Formsを用いて図2で示した第1時のゴールの達成度について回答を求めた。第1時のゴールである「挙げている出来事と現代への影響を根拠をもって説明できる」ことに関して、十分に満足できる(○)または概ね満足できる(△)状態であると95%の生徒が自らの学びを振り返っていた(図12)。

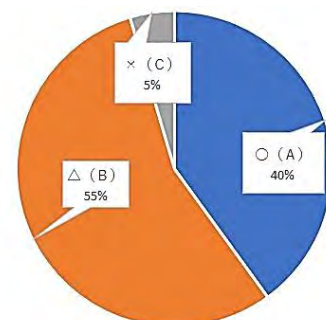


図12 第1時「今日のゴール」達成度

このことから課題解決の過程や授業のゴールを提示したことが、生徒に学習の見通しをもちやすくする効果があったと考える。

また、単元の導入においては問題提起としてのニュース動画やWeb記事を視聴・閲覧することで学習内容への関心を高めることをねらいとした。生徒は自分の国でヘイトスピーチが行われている現実に驚きを感じ、なぜ、そのようなことが起こるのかについて強い関心をもったことで異なる文化をもつ人々への無理解が差別や偏見につながることに気付き、第3時の終末には個人レベルの取組としてそれぞれの文化の違いを認め、理解することが多文化共生につながると思う生徒もいた。

## 2 個別学習について

個別学習では、Microsoft TeamsにあるPDFファイルや動画を学習のヒントとして活用することで、生徒自身の復習を容易にし、近代化の歴史が持つ様々な側面を深く知るきっかけとすることをねらいとした。

第3時終了時に、生徒はスマートフォンで撮影し、Microsoft Teamsの投稿欄に発信した。単元全体に関わる問いのまとめとして記入したワークシートの記述の内容を読むと、生徒は、教科書にある図版や記述のみでまとめるよりもオンラインでの動画や資料など複数の資料を比較し検討しながら学んだことで、多文化共生を実現するためにどのように行動すればいいのかについて具体的に考えることができていた(図7)。

## 3 協働学習について

協働学習では、発表や話し合いの場面での考えの共有と深まりを、意見整理の場面では、効率的な情報収集と課題追究の促進をねらいとした。また、実施後に第3時の振り返りとともに集めた「近代化に対して、考えが変わったか。」についての質問を行った。回答数94のうち、近代化への考えが変わったとする回答は76であった。その内容については、技術的な進歩や権利の獲得といったプラスの面がある一方で、その過程で差別や偏見といったマイナスの面が生じたことに触れている回答や現代の課題とされていることを近代化の歴史につなげる視点をもてたとする回答が見られた(表1)。

表1 近代化に対する考えの変化(具体例)

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・近代化とは、現代までの発展に繋がる革新的なものだと思っていたが、一方で自国の利益を優先するあまり、差別や偏見などが生まれてしまった出来事でもあることが分かった。</li><li>・近代化とは、より強大な国に成長させるために工業化や軍事化を進めることだと思っていたが、今回の授業を通して互いの文化を守り継承していくために歩み寄り理解することだとわかった。</li><li>・今の時代で多文化共生が大切なのは分かっていたけれど、それを19世紀の世界とも関連づけるのは考えたこともなかったので、新しい視点から考えることができました。</li></ul> |
|--|

生徒は様々な学習場面にICTを活用したことにより、これまで学習した近代化の歴史が現代の諸課題と連続性をもつものであると実感していた。また、学習前は近代化を進めた国の立場でのみ捉えていたが、それらの国や人々に苦しめられた人の立場からも考察し、課題となっている多文化共生社会の実現のために何ができるのかを考えることができていた。近代化の過程を複数の面(政治面、文化面)や複数の視点から考察できたことが分かる。

### 【指導上の留意点】

#### (1) ICT活用の位置付け

今回、思考や発言を視覚化する場面において、ICTを多く用いた。生徒の学習の成果を残すものとしては紙によるワークシートを使用するようにして、生徒が前時を振り返る際にはワークシートで確認できるようにした。生徒の実態から、スマートフォンの小さな画面上で振り返るよりも、紙面での確認が有効であると考えた。このように授業のすべての場面でICTを使用するのではなく、ICTの役割の位置付けを明確にしておく必要がある。

#### (2) アプリケーション使用の際に気を付けること

現在、生徒のキーボード入力に大きく個人差がある。ICTを授業に取り入れる際には、使用ソフト、アプリケーションがタブレットPCとスマートフォンでは表示や機能がどのように違うのか、スマートフォンのOSによっては事前にアプリケーションをインストールすることが必要であるかを確認しておく必要がある。生徒のICT操作スキルの実態を把握し、授業で使用する前の準備を生徒側の使いやすさを考慮して進める必要がある。